

テゼからの提言 2017年

ともに希望の道を開く

2016年9月のはじめに、「信頼の巡礼」の一環として、ベニンのコトヌーにアフリカの青年たちが7500人集まりました(注)。この大会のテーマは、2017年を通してわたしたちを導くものです。ともに…一人ではありません…、互いに支えられながら、希望の道を開くのです。自分自身の内に、周りの人々の内に、人類家族のために。コトヌーで問われたことは、「外からの変化を待つ受身の姿勢を後ろに置いて、どのように希望を養うのか。どのようなかたちの行動が一人ひとりに可能なのか」ということ。

他の大陸の人々にとって、より確かな正義を政治と経済関係に切望するアフリカの人々に耳を傾けることは今とても必要です。国の未来を築こうとするときに、正義の確立は、現実的に避けられない重要なことの一つなのです。

この未来を整えるために、実に多くのアフリカの青年たちは、自分の中の創造的な可能性を用いたいと願っています。そしてそれは、世界の他の地域で同じような状況に置かれている青年たちの内に勇気を呼び覚ますことになるのです。

コトヌーで始まったこの考察を、テゼやその他の場で継続させてゆくために、以下、希望の道を開くためのテゼからの四つの提言です。

これらの提言をどのように行動に移してゆくのか。ブラザー・ロジェがテゼ共同体^{コミュニティー}の生活の心としていた単純素朴、喜び、いつくしみの中から、特に単純素朴に心をとめてその模索を進めます。

注：この集会は、ベニンのカトリック教会とメソジスト教会の招きで、8月31日から9月4日に開催された。ヨハネスブルク(1995年)、ナイロビ(2008年)、キガリ(2012年)で開催された大会に続くアフリカにおける信頼の巡礼の四つ目の大会。ベニンからの7500名の参加者の他に、トゴ(800名)、ナイジェリア(550名)、ガーナ(100名)、ブルキナファソ(160名)、コートジボワール(50名)の国々から青年たちが集まり、全体ではアフリカの20の国々の青年たちが顔をそろえた。またヨーロッパの国々からは60名の青年が集まった。フランス語、英語、フォン語が分かち合いやフォーラムで使用され、祈りにはさらにヨルバ語とミナ語の歌も取り入れられた。

ブラザー・アロイス (テゼ・コミュニティー院長)

f. Alois

提言1 希望にしっかりと立つ：それは創造性

- アブラハムは希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ、多くの民の父となりました。(ローマ4:18)
- この希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨です。(ヘブライ6:19)
- こどものように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。(ルカ18:17)

不安定な今日の世界の中で、暴力や苦悩や不正義によって、わたしたちは不安にかられています。全被造物が、生みの苦しみのようにうめいています。聖霊もうめいています。しかし、この同じ聖霊が希望を支えるのです。(ローマ8:22,26参照)そこで、わたしたちに何ができるのでしょうか。

信仰は、神への単純素朴な信頼です。それは、出来合いの答えを与えてくれませんが、恐れや絶望によって麻痺することがないようにわたしたちを支えます。課題に取り組み、道を進むように導きます。それによって、福音が、あらゆる希望をはるかに超える広大な希望の地平を開くことを知ります。

この希望は、現実を直視しない安易な楽観主義ではありません。それは神に錨をおろした希望です。それは創造性。このしるしは、地上のもっともそれが有り得ないようなところにすでに存在しています。

わたしたちの心の中に、そして世界の中におられる聖霊の存在をあえて信じますか。目に見えなくても、その現存に信頼できますか。

どうかわたしたちの信仰が、こどもが抱く信頼のように、単純素朴さとどまり続けますように。このことは、信仰の内容を骨抜きにすることではなく、もっとも重要な核心、つまり人類すべてと全被造物への神の愛に、しっかりと立つということなのです。聖書はこの愛について物語っています。すべての始まりの新鮮さからあらゆる障壁、人間の不誠実さの中をさえ貫く愛について語っています。神は愛することにけっして疲れません。この知らせによって、わたしたちの内に希望が宿りますように。

自分、そして身近な人たちの中にこの知らせをゆきわたらせるためには、もっと祈るために集まる必要があります。祈りの単純素朴な美しさは、神の神秘を映し、それを通して神との個人的な出会いが生じることもあります。

提言 2 分かち合うために生活を^{シンプル}単純素朴にする

- イエスは言われた、「わたしは柔和で謙遜な者。」(マタイ 11:29)
- ただで受けたのだから、ただで与えなさい。(マタイ 10:8)
- イエス金持ちの青年に言われた。「行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。それから、わたしに従いなさい。」(マタイ 19:21)

お金と名声を求める競争、欲深さは、不正と欲求不満をもたらします。福音が招く分かち合いの心を育むことは、今日ぜひ開かねばならない希望の道のひとつです。

単純素朴な生活を選択することは、自由と喜びの源です。それは生活の重荷を軽減します。

単純素朴さは、心を透明にさせます。それは何でもすぐ信じてしまう騙されやすさではありません。しかしそれは、不信や疑いを退けます。裏表がありません。出会う人すべてと、恐れずに対話します。イエスの生き方です。

日常の物的なことに関しては、シンプルな生活をこれからも求めてゆきましょう。多くの人の苦悩、屈辱、貧困、移民の試練、世界中の紛争、これらの現実の中で、シンプルな生活は、分かち合うことの実践をわたしたちに喚起します。

社会や環境の課題に取り組み、職場や学校など、近隣の人たちの中に、勇気ある行動によって希望を示す人々がいることに気づきながら、互いに支えあう方法を模索するのです。

どのようにしたら、シンプルに整った生活を通してすべての被造物とより調和を保ち、それによって環境破壊やグローバルな危機に立ち向かうことができるのでしょうか。この努力は、国々の指導者たちだけに委ねられたものではありません。自分の地域で生産されたものを消費し、公共交通機関をもっと利用するというような、一人ひとりにも委ねられた課題なのです。

この課題が、わたしたちの大きな関心ごとであり続けるのでしょうか。柔和で謙遜な方、キリストに従う用意ができていますでしょうか。「はい」と応じる単純素朴さのうちに、寛容な心のうちに、このキリストにずっとつながることを選択する用意が。

提言 3 とともに集まり、福音の豊かな活力をあらわす

- 最初の信者たちは、毎日神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事を

した。(使徒 2:46)

- 賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。務めにはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ主です。(1 コリント 12:4-5)
- 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。(ヘブライ 13:2)

聖書は、ペトロとコルネリウスという二人の男について語っています。あらゆる点において異なる二人ですが、出会うことによって、この二人はそれまで知らなかった真実に気づきます。聖霊が壁を打ち倒すということを理解するためには、そして聖霊が他人と思っていた二人を結びつけるということを知るためには、二人は一緒になる必要がありました。福音の豊かな活力は、わたしたちが集まり一緒になったときにはじめて立ち現れるのです。(使徒 10 章・11 章参照)

キリスト者が教派間で、あるいは同じ教派の中で分裂しているとき、福音の知らせはぼやけてしまいます。相違を分かれることの理由にせず、ともに歩くことはできないでしょうか。キリスト者として、もしわたしたちが、多様性の中での一致を示すことができたなら、それは、人類がさらに一つの家族になることに貢献できるのです。

キリストは、ひとつのコミュニティの中にすべての人を結びつけます。あらゆる地平、言語、文化に生きる男、女、こども、高齢者、さらには、歴史的に敵対する国々の人々を。このことをそれぞれが暮らす場所で示すために、単純素朴な道を探し求めましょう。

すべてのコミュニティは、それが健全であるために、みずからの外に向ってゆくようにと呼び出されます。神の似姿を帯びながら、自分の立場とは大きく異なるキリスト者たちをもてなすことはできないでしょうか。このような開かれた心には、「翻訳」する努力が求められます。なぜなら異なる信心や教条はときには互いに異なる言語のようなものだからです。

長い分裂の歴史の中で生じたキリスト者同士の不寛容の記憶がまだ鮮明で、もつれた糸のすべてがまだ解かれていないときでさえ、わたしたちはゆるし合いながら、だれが正しくだれが間違っているのかと裁こうとせず、勇気を出して歓迎し合おうとするでしょうか。犠牲を伴わない和解は存在しません。

もてなしは、他者の他者性を認めることによって可能になります。他者の信条を理解しがたいときは、少なくともその誠実さに心をとめるのです。他者と出会うこと、それは祝祭のできごとでもあるのです。

提言 4 平和を築くために友情を育む

- イエスはわたしたちを兄弟・姉妹と呼ぶことを恥としません。(ヘブライ 2:11)
- イエスは言われた。「あなたがたの師は一人だけで、あとはみな兄弟・姉妹なのだ。また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。」(マタイ 23:8-9)
- イエスは言われた。「だれでも、わたしの天の父の御心を行う人が、わたしの兄弟、姉妹、また母である。」(マタイ 12:50)
- 人々は、東から西から、また南から北から来て、神の国で宴会の席に着く。(ルカ 13:29)

平和と世界の正義のために心を砕くことも、今日わたしたちに可能な希望の道です。

地上の平和は、一人ひとりの心の中から始まります。まず何よりも、自分の心が変容されねばなりません。そしてこの変容は単純素朴な回心、すなわち神の霊がわたしの内に宿ることを受諾し、そこから広がる平和を迎え入れ、それを人から人へと伝え分かち合うことへとわたしたちを招きます。「あなたの内なる平和、それは周りの何千もの人々を救います。」(ロシアの修道者・サロヴのセラフィム、1759-1833)

自分の生き方によって、分断と障壁を越えた単純素朴な連帯の新しい始まりを生きるのです。わたしの生き方によって、世界各地にある目に見える壁、また無知と偏見と主義主張という目に見えない壁を乗り越える道を開くようにと招かれています。自分とは異なる文化や考え方に心を開くということ。

外国人、異文化の人が心に入ってくることを拒絶してはなりません。他者を拒絶することは紛争の種だからです。外国人を、生活の水準やこの地の文化への脅かしと捉えずに、同じ人類家族の一員として歓迎できないでしょうか。難民を訪ねて、直接出会い、その物語に耳を傾けてはどうでしょう。そこから連帯の次の歩みが始まるかもしれません。

どのようにしたら、自分とは異なる人を知るようになるのでしょうか。異なった考え方の人と、対話を通して分かち合うのです。他の人をまだ理解できないときさえ、正誤の議論に走らずに、まず互いに耳を傾けます。分裂のあるところに身を置き、そこに橋を築く道を見出すのです。わたしが理解できない人、わたしを理解しない人のために祈るのです。

連帯のしるしは、宗教の境を越えて増えてゆくこともあります。他の宗教の信者との出会いは、自分の信仰に関する知識を深めることを助けます。自分とは異なる兄弟や姉妹を通して、神が何をわたしに語り、何を与えようとしているかを自問するのです。

これからの数か月間、「テゼからの提言 2017年」を具体的に生きようとする模索の個人的体験を、テゼのウェブサイトなどで紹介します。あなたの体験をぜひ分かち合ってください。echoes@taize.fr

テゼ 2017年

年間を通じて：

毎週（日曜から日曜）、信仰の源泉に向かうための青年の集いが開催されています。自分の中に、自分の周辺に、そして人類家族の中に希望の道を求め、その道をともに探します。

8月20日～27日

18歳～35歳の青年が対象の一週間。学生、社会人、ボランティア、求職中の青年が集まります。信仰の視点からそれぞれの未来を見つめます。さまざまなゲストが招かれ体験を分かち合います。

バーミンガム(英国)(2017年4月28日～5月1日)

ブラザー・アロイスは、英国のバーミンガムで青年の集会をリードします。「隠された宝」をテーマに過ごすこの週末は、地域の諸教会によって準備されています。この集いでは、多くの人のひたむきな奉仕を覚え、祝います。バーミンガムは、比較的若く、多様な民族から成り立っている都市です。世界各地からの参加者も歓迎します。

セント・ルイス(米国)(2017年5月26日～29日)

「地上における信頼の巡礼」の米国での大会が、セ

ント・ルイスで開催されます。2年前のファーガソン事件の悲劇の記憶がまだ生々しい場所です。一年をかけてこの地域の諸教会が祈りと対話のための夜の集いを開催し続け、その実りとしてこの大会が開催され、北米各地から青年たちが集います。

エジプト(2017年9月26日～10月1日)

ブラザー・アロイスは、テゼのブラザーたちと世界各地の青年たちとともに、エジプトに赴き、特にコプト教会を訪問します。

ウィッテンベルクからジュネーブへ

宗教改革500周年を迎える2017年、テゼは、二つの集会を導くよう招かれています。

5月27日：ルターの町ウィッテンベルクで、ドイツプロテスタント教会の「教会の日」のプログラムとして集いが開催されます。

11月3日：ジュネーブの大聖堂での集会。スイスのプロテスタント教会連盟と福音教会のネットワークの主催による集会。

リガ大会の参加者に寄せられた教会指導者および国際団体からのメッセージ：www.taize.fr

テゼのヨーロッパ大会

(2017年12月28日～2018年1月1日)

会場はリガ大会の開催中に公表されます。

テゼ共同体と集いに関する詳細：www.taize.fr

教会の指導者たちへの呼びかけ 2017年 道とともに歩む！

2017年に迎える宗教改革500周年は、一致に向けて進み、そして単なる友好を超えて歩み出す機会です。

教派間には、そして一つの教派の中にも、常に相違点が存在します。このような相違点に関しては、率直な対話が求められ、それなりの実りもあるでしょう。しかし、すべての教会で、今まではその教派の独自性・固有性というアイデンティティーが優先され、人々はそれぞれ自分のことをプロテスタント、カトリック、正教会と位置付けてきました。今、洗礼のうちに明らかにされたキリスト者としてのアイデンティティーを優先すべきときが来ているのではないのでしょうか。

ここで問いが生じます。キリスト者は、すべての神学的な問いが合意に達するのを待ち続けずに、一つ屋根の下にあえて集まるべきではないのでしょうか。または少なくとも、あまりに固定化した一致の視野を超えて、同じ幕屋の下に集い、催しを創造し、新たな道を見つけてはどうでしょう。それらが仮に暫定的なものであっても、それは一致の喜びを先取りし、神の教会、キリストの体、聖霊の^{コミュニケーション}の交わりの目に見えるしるしとなるのです。

キリストを愛する人々の^{コミュニケーション}交わりは、多様性が尊重されるときにはじめて確立します。しかしこの交わりは、目に見えるときにはじめて信憑性を持ちます。わたしたちは、そのような和解を生きる多様性を目指して新たな出発をせねばなりません。出発点はキリストです。不可分なキリストです。「キリストを通してのみ、わたしたちは互いに兄弟になります。....わたしたちの相互のつながりは、キリストを通してこそ、真実となり、統合され、いつまでも続きます。」(ディートリッヒ・ボンヘッファー)。

このようにして、賜物を分かち合うことが実現します。神からの賜物を他者と分かち合うのです。しかし同時に、神が彼らの中に置かれた宝物を迎え入れます。「人を良く知るといふことは、単にその人に関する情報を手にするということだけではありません。わたしへの贈り物として、聖霊がその人の内に蒔いたものを受け入れるのです。」(教皇フランシスコ)

どのようにしたら同じ屋根の下に集うことができるのでしょうか。どのようにともに歩き出すのでしょうか。いくつかの提案です。

異なる教派に属する近隣の人々や家庭が「草の根共同体」として集まり、賛美と沈黙のうちに祈り、神のことばに耳を傾け、互いを助け、もっと互いを知るのです。

地域のすべてのコミュニティー、教会や集会は、聖書の学び、司牧(牧会)、入門講座など、可能な限りすべてのことを他の教派のキリスト者と一緒に行うのです。彼らのことを考慮せずには何も行わないことにします。平行して同じ働きをする団体は合併することも考えます。

困窮する人々との連帯の活動も一緒に行います。人々の悲しみ、隠された苦痛、移民の苦境、物質的貧困など、すべての苦悩の現実にとともに関心を向けます。環境を大切にすることにもともに取り組みます。

教会間ですでに信頼関係が育まれている都市では、カテドラルか主要な教会が、すべてのキリスト者の共通の祈りの家にならないのでしょうか。

神学的な対話を進めるときも、ともに祈ることを大切にし、わたしたちがすでにともにいることに心を向けます。友情のうちに成長し、ともに祈るとき、神学的な問いには別の光が差し込みます。

すべてのキリスト者は、他の人を助ける司牧的な賜物をいただいています。教会は、あらゆるレベルで一致のための職制を必要としています。普遍的なレベルでは、^{コミュニケーション}交わりの司牧的役割は伝統的にローマの司教に委ねられてきました。諸教会がこの役割にみずから関連付けるさまざまな道を開くことが考えられないのでしょうか。すべての人が、このローマの司教を、大きな多様性の中で、兄弟・姉妹たちの和合を見守る僕として認めることはできないのでしょうか。

ともに主の聖餐をいただくためには信仰の一致と職制に関する合意が必要であると諸教会が強調するとき、同じ重要さで調和と互いの愛を強調すべきではないのでしょうか。一致を願い、キリストの現存を信じる人には、より広い聖餐的(ユーカリスティック)なもてなしが提供できないのでしょうか。ユーカリスト(聖餐式・ミサ)は、一致の頂上に存在するだけではありません。それに向かう道であるのです。

わたしたちのキリスト者としてアイデンティティーは、別々にではなく、一緒に旅を続けるときに形作られてゆきます。福音の豊かな活力と真理が^{あらわ}顕れるために、同じ屋根の下に集まる勇気があるのでしょうか。

ヨーロッパ大陸の一致に向けて 移民の到着：恐れを乗り越えて

2016年12月にテゼ共同体が開催したりガ大会には、ヨーロッパ各地から青年たちが集まりました（注）。EU（欧州連合）に属する国々、属さない国々から、青年たちが集い、ヨーロッパ大陸全体の人々を一つにすることが可能なコミュニティを体験しました。また、この北欧の集いは、他の地域から来た青年たちにバルト諸国のヨーロッパについて学ぶ機会となりました。この北欧の国々は、ヨーロッパ大陸の人々の美しい多様性を備えていて、それぞれの国に独自の歴史、伝統、特質があるのです。

平和な未来のために、ヨーロッパの人々は気づきを深め、大陸を構成するすべての国々で連帯を育まねばなりません。出会いの機会、分かち合いの形態、共同の働きを、これらを増大させることは重要です。

ヨーロッパの一致を築くためには、国々の間で対話がさらに進むこと、互いに聴きあうことが不可欠です。EUに属する国々、属さない国々、西ヨーロッパ、中央および東ヨーロッパ、そして北と南ヨーロッパの国々がすべてこれに招かれています。大国であれ小国であれ、それぞれの国は、その特質を大切にしながらみずからの声を発し、他国はそれに耳を傾けるのです。他者のものの見方の視点から理解するように努力することが大切です。このようにしてこそ、自分とは調和しない態度をより理解することが可能となり、感情だけに振り回される反発を避けることができるのです。

ヨーロッパの人々は、その共通のルーツが、互いの違いよりもっと深いところに根ざしていることに気づくでしょうか。

第二次世界大戦の直後、ヨーロッパは和解に向けてはずみをつけました。そして、ベルリンの壁の崩壊後、一致を模索する新しい時代が訪れました。多くの青年たちは、もしヨーロッパが前進できるとしたら、それはヨーロッパが理想的な友愛関係にさらに入ってゆくことを通してだろうと感じています。彼らは、内側で一致するヨーロッパだけにあこがれているわけではありません。それは他の大陸に開かれたヨーロッパ、多くの苦悩を抱える人々と連帯するヨーロッパです。

世界中で、人々が、こどもたちが、祖国を追われています。直面する苦悩によって祖国を離れねばならないのです。その意志は、道を閉ざそうとするあらゆる妨害よりも強いのです。経済的に富んだ地域で人々が感じる不安は、祖国を離れるという耐え難いほどの苦悩を味わっている人々の足を止めることはできません。

ある人は言います。「すべての人を迎え入れることはできない」。他の人々は言います。「耐え難い過酷な状況が原因で彼らが来るのだから、その人口の流入は避けられない。」人々の流れを調整しようとすることは正当なことであり、必要なことです。難民を人身密輸船の手や地中海での死の危険に置き去りにすることは、一人ひとりの人間の価値を置き去ることに他なりません。

富める国々は、歴史の傷や環境の破壊がもたらし、今ももたらし続けている無数の移民---アフリカ、中近東、中央アメリカ、そのたの地域---に対してその責任からのがれることはできません。今日、富める国々によってなされた政治的、経済的選択は、いまだに他の地域の不安定さを生み出しています。西欧社会には、今や、外国人への恐れ、文化的相違への恐れを乗り越えて進み、すでに移民がもたらしたものを取り入れながら新しい景色をつくり出してゆく勇気が求められます。移民の到着は、確かに現実的に大きな問題を生じさせていますが、彼らの到来は、ヨーロッパが開放性と連帯を育む機会でもあるのです。

到来する移民の数があまりに多く、混乱と疲労が限界を超えるような場所があることは理解できます。重荷があまりにも大きいのは、ヨーロッパの国々がいまだに一緒に課題に取り組む方法を見出していないからです。しかし、多くの人々が、難民に暖かいもてなしを差し出し、個人的な彼らとの出会いが、美しい相互理解をもたらすことが少なくありません。

個人的な出会いに勝るものはありません。とくにムスリムとの出会いに関してこれは真実です。ムスリムとキリスト者は、平和に向かってともに証しし、神の名によって正当化される暴力をいっさい拒絶する具体的な歩みを探することができます。約800年前、アッシジのフランシスコは、平和を強く願い、エジプトに赴き、ムスリムの君主に会うことを躊躇しませんでした。マザー・テレサは、いかなる宗教の人であっても、極貧の人々のために生涯を差し出しました。

みずからを孤立させようとしたら、ヨーロッパのその国には未来がありません。ヨーロッパの人々にとっても、難民との彼らの関わりにとっても、友情と相互支援が、平和を築く唯一の道です。

（注）2016年12月28日から2017年1月1日まで、ラトビアの首都リガを会場に、テゼ共同体の主催による第39回ヨーロッパ大会が開催され、全ヨーロッパからカトリック、正教会、プロテスタントの青年たちが集まりました。1月2日、この大会はタリン（エストニア）とビリニユス（リトアニア）にも拡大して開催されました。これは、長年テゼによって開催されている「地上における信頼の巡礼」のひとつです。